



ブライアン・メイさんの写真は、
特別に使用許諾を得て掲載しています。



柴田一成京都大学名誉教授と握手する
ブライアン・メイさん

2020年
1月27日、イギリスの伝説
的なロックバンド「クイーン」のギ
タリストで宇宙物理学者のブライアン・
メイさんが花山天文台を見学され、以下の
応援メッセージを贈ってくださいました。
『花山天文台の存続への戦いを支援します。こど
もたちが、このすばらしい歴史をもつ天文台を
訪れ、あここが、次世代の若いアマチュア天文
学者のインスピレーションの重要な源となる
ように、花山天文台の存続を! (KEEP
KWASAN ALIVE!)』
(ブライアン・メイさんのイン
スタグラムより)



ブライアン・メイさん
が残した45cm屈折
望遠鏡土台のサイン

花山天文台（本館、別館、子午線館）が
2025年に日本天文遺産に認定されました

花山天文台 土日公開

みんな
天文台に
行こう!!

京都大学大学院理学研究科附属花山天文台では、土曜日と日曜日の昼に
公開を行っています。また、月に一回、土曜日の夜に星空観望会も実施して
います。この機会に多くの皆さまのご参加をお待ちしています。

昼の公開 ※花山天文台で昼に別のイベントが予定されている場合は、
休館となります。最新情報を直前にWebでご確認ください。

公開時間：10:15~15:00

団体利用もできます。メールでご相談ください。

●自由見学コース（土曜日）※予約不要

本館・別館・歴史館の見学

開催日をWebでご確認のうえ、お越しください。

参加協力金：大人1,000円・小中高 500円

●太陽スペクトル観望コース（土曜日）※要予約（先着順）

柴田一成京都大学名誉教授によるミニ講演

太陽館・本館・別館・歴史館の見学

参加協力金：大人2,000円・小中高 1,000円

●京都大学4次元デジタル宇宙シアター（4D2U）

上映コース（日曜日）※要予約（先着順）

国立天文台4D2Uプロジェクト提供の「Mitaka」や動画、

京大天文台独自の3D動画「Kyoto4D」により上映

本館・別館・歴史館の見学

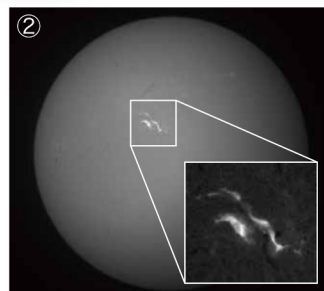
参加協力金：大人1,500円・小中高 800円

定員、申込方法などの詳細は、花山天文台のWebサイト
(<https://kwasan.kyoto-u.ac.jp/open>) をご覧ください。

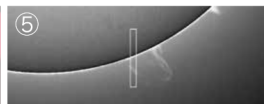
※見学には地下鉄やバスをご利用ください。



〈左〉①太陽プロミネンス（2022年9月15日）〈右〉②中規模フレア（2021年11月2日）
別館：18cm屈折ザートリウス望遠鏡。晴天時には、リアルタイムの太陽画像を観察できます。



③太陽スペクトル（虹）
太陽館：
70cm シーロスタート望遠鏡



秒速数10kmで運動するプロミネ
ンス（右図⑤）のスペクトル（左図④）
：H α 線、左方向が短波長、右方向
が長波長）2022年7月2日
左図は太陽館、右図は別館で撮影

共催

京都大学大学院理学研究科附属天文台
一般財団法人 花山宇宙文化財団

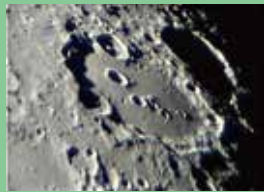
Web <https://kwasan.kyoto-u.ac.jp/open>

お問合せ kengaku-kwasan@kwasan.kyoto-u.ac.jp





45cm 屈折望遠鏡



月のクレーター



宮本正太郎博士（第三代花山天文台長）による 1956 年の火星接近時のスケッチ

銀色の直径9mのドームを頂く本館は、花山天文台の象徴ともいべき建物です。ドーム内には、屈折望遠鏡としては国内で3番目の口径を持つ45cm屈折望遠鏡が設置されています。天体の追尾には、ガバナー（遠心调速機）による重力時計が現在でも用いられています。（1968年に45cmレンズに換装）

本館

（1929年完成）

歴史館（旧子午線館）は本館、別館と共に 1929 年の花山天文台設立当初からある建物で、当時は子午儀を用いて正確な時刻を知るための観測が行われていました。現在では天文台の歴史を伝えるミニ博物館になっています。



木造平屋根を特徴とする歴史館の外観



子午儀（左）と精密時計（右）

歴史館

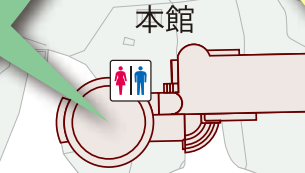
（1929 年完成）

4Dシアター

（2023 年完成）



2023 年に京都葵ライオンズクラブからの寄附により、4次元デジタル宇宙シアター上映館（4D シアター）設置。



本館前広場

別館 歴史館

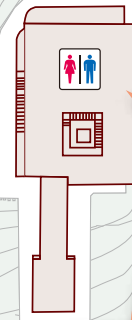
新館

露場

新館前広場

4Dシアター

太陽館



1961 年に完成した太陽館は建物全体で「太陽分光望遠鏡」として機能します。70cm シーロスタット鏡により太陽光が建物内に導かれ、分光器によりスペクトルを取得できます。



70cmシーロスタット鏡

太陽館

（1961 年完成）

別館

（1929 年完成）

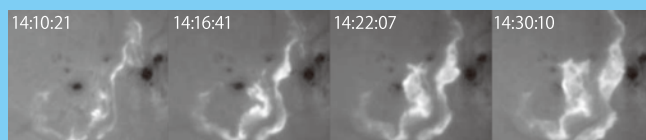
別館に設置されているザートリウス社製の口径 18cm 屈折望遠鏡は、1910 年のハレー彗星接近の際にドイツより輸入されました。現在では太陽の観測に用いられています。現役としては日本最古の望遠鏡ですが、データは最先端の科学研究に用いられています。



ザートリウス 18cm 屈折望遠鏡



18cm 屈折望遠鏡で観測した太陽

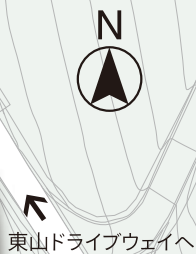


18cm 屈折望遠鏡で観測した 2001 年 4 月 10 日の太陽フレア



分光器室内に映し出された太陽のスペクトル

花山天文台構内マップ
2025年1月作成



東山ドライブウェイへ